

# スタッフ紹介

Interview

～「まっちゃん」の巻～

「氣道のスタッフ」をもっと知りた〜い☆☆コーナーです☆☆

インタビュアー：N.F.



今回は  
笑いの絶えない…  
まっちゃんこと  
松岡正彦先生!  
です〜!

●まず・・・お好きな音楽などなど。

長谷川先生のライブです。先生のピアノの旋律って体の芯まで染みこみます。それと、よく先生と一緒にセッションされている「つの健さん」の、魂を揺さぶられるというか、お腹の底から突き上げられるドラムがすごく好きです。ミシェル・ペトルチアーニとかも好きですね。

本は、司馬遼太郎の歴史小説。何気ないその人の心の状態やお互いの関係性だとかを、短い言葉で言い表す何気ないセリフが好きです。映画はチャップリン。好きな食べ物は・・・味噌のおにぎりです。小さい頃お爺さんが作ってくれて・・・。

●お爺さんとご一緒だったんですか?

実家は逗子なんですけど、小さい頃は農家だったんです。お爺さんが胡瓜とってきて、井戸水で洗って、味噌付けて「ほら食べてみる」って。美味しかったですね〜。弾力が違うし濃さが違う。

家には三人のお年寄りがいました。お爺さんの肩を叩いてあげたりだとか揉んであげたりすると喜ばれるし、やっていること自体が楽しくて。ですから、人の体に触れるっていうものは、子どもの頃から自然とやっていたんです。又、内2人は自宅で亡くなったので、「死」というものを当たり前のこととして感じていました。

●子ども時代は、どんな感じだったんですか?

風邪をしょっちゅう引いている子どもだったんです。そのうち自分流の治し方っていうのを考え出し

ちゃったりして…。まず、枕元に着替え用のパジャマを3つくらい用意するんです。そして、熱いお風呂に入る。後は布団を頭からかぶってひたすら汗をかくという簡単なものです。当時、風邪を引いたらお風呂は入らないのが常識だったのですが、ほとんど一晩で経過するし、翌朝、とても心地良いんです。

同時に、薬が好きで少年でした。当時は医者に行くよりも、まず富山の薬・・・あれを飲むっていうのが定番だったんですね。後年、社会人になってから、「サプリメント」を手当たり次第購入して飲むようになって。そうこうしているうちに、突然体に湿疹がいっぱいできちゃったんです。

2〜3年くらい間に10カ所近くの病院を渡り歩きました。飲み薬、塗り薬、注射・・・そのものを繰り返してた。体の声を聞く、なんていう感じじゃなかったんですね。そうしたら、ある日熱が出て下がらない。病院へ行ったら、「今から入院してください」と言われ・・・薬剤性肝炎でした。次の日の朝ふと鏡を見たら、目が3ミリくらいしか開かないくらいまで顔が腫れ上がってた。なんだこりゃーって。2ヶ月間入院しました。退院したあと喘息になって、また1ヶ月入院。退院してからも、喘息の薬は処方されていたんです。そうしたら顔に吹き出物が出てきて。なにげにそれをつぶしたら、中から黄緑色の膿が出てきた。・・・体の中にある色と黄緑というものが結びつかなかったので、すごく怖くなって、直感的に飲むのを止めてしまった。それ以来薬は一回も飲んでません。

●そういった体験が氣道と繋がるんですね。

はい。退院した頃、友達から全体の学校のチラシを渡されて・・・サラリーマンしながらですが、通い出したら、これが面白かった。そろそろ終わりだなんていう頃、氣道の横浜道場の前を通りかかって、そこにあったチラシをとって見て・・・「あ、面白そうだな」って。講座に参加して愉氣を知っ

て・・・氣道にどんだのめり込んでいきました。

そのころまた湿疹がではじめていたんですね。で、長谷川先生にお話ししたら、「それだったら中毒風呂っていうのがあるから、やっごらん」と、教えてもらいました。低い温度から徐々にお風呂の温度を上げていく。体の中から一気に毒素を出すっていう方法なんですね。それしたら3日後には、赤い湿疹がただの茶色のシミになってしまった。驚きました。それまで何年間も、どこの病院行っても改善しなかったのに。

はあー!! こういう方法があるんだーと。体が如実に示してくれたので「これは間違いない」って思いました。

数年学んでいたら、会社で異動の内示を受けまして。これは氣道に通えなくなるし、体が壊れるな、と思い、サラリーマンを辞めてスタッフにさせていただきました。

### ● 長谷川先生について。

大尊敬!! はもちろんですが、+懐かしさっていうか、親しみやすさっていうか・・・なんか思わず引き寄せられるような、そんな雰囲気のある方だ。うーん。優しさとも言えるし、懐の深さとも言える。それらのものが一緒になっている。

それと、先生の、正直っていったらいいのかな、素直っていったらいいのかな。そういうのを垣間見る瞬間って、「いいなあ」って思いますね。

### ● お休みの時は何されてるんですか？

講座のレジュメ作っていることが多いです。来月はこんなことやろうかな、とか、今回の穴追いはこんな感じかな、とか、構想を練ったりしてます。

音羽の森というホテルのティーラウンジが好きで、講座のことや夢についていろいろと思いを巡らせています。そこは眺めが良くて、すごく豊かな気持ちになります。

あと、古武道・・・剣術の稽古に行っています。氣道のスタッフになって、自動運動や内感運動をやり込んでいたら、スタッフになる前より稽古の時間は短くなっているんですけども、上達は速くなった。疲労も少なくなってます。そういう、氣道との共通点・・・体感だとか、内感だとかっていう感覚に沿っていけば良いことが分かってきました。

### ● これから、力を入れていきたいこと等は？

自動運動をもっと広めていけたらいいな、と思います。趣味は何ですか？って聞かれたときに「読書とテニスと自動運動です。」って言える・・・それくらい楽しいものなんだって。「自動運動会」に参加されている方って、ホントそうなんです。自動運動するのが楽しいから来る。そういう方が集まってきてくれるんです。みんな「楽しかったね～」って・・・笑いが絶えません。

手当て（愉氣）も同じで、友達とかご主人とか子どもとか、ふっと、手を当てられる感覚を育てたいなって思うんです。ともかく気持ちいいから手を当てよう、気持ちいいから自動運動しよう。・・・そんなことを広めていきたいですね。

触れる、ということも本当に好きなので、もちろん個人指導もしっかりやっていきたいです。

### ● 会員の皆様へ。

まずは経験しましょう。で、心地良かったら一緒にやりませんか？ いかにか安全に楽しく自由にできるかを考えて、自動運動会とか愉氣法講座とか穴追いとかがやっています。

「感じましょう、遊んでください、楽しんでください。」すると、後から健康とか夢が付いてきます。

皆さんとお会いできるのを楽しみにしています！



「そうそうそう!」「そうなんですよねえ～」「あー!それ私も好きです～」 「うわー (^\_^)v」

松岡先生とお話をしていると、次々とそんなセリフが飛び出してきました。子どもの頃から人を笑わせるのが大好きで、大学時代「落語研究会」にも所属されていた物知り&お話し上手のまっちゃん。

笑いが絶えない水曜日の体塾（自動運動会）。月1回水曜日の「愉氣法講座」。気持ちが良くて皆リピーターになってしまふ「穴追い」（個人指導）&「穴追い講座」等々。もちろん、的確な「個人指導」も。

皆様是非、心地良く楽しいまっちゃんワールドを体験しにいらしてください!!